



今日からできる 『社会貢献』

確かめられた日本

第8回

株NTTデータ経営研究所
村橋 保春



力づけ合う心

車が、家が、街が流されていく。テレビが映し出す画像が意味することを理解できなかった。建物の屋上や高台に避難する方々がいち早く助けられることを願うことが唯一自分自身で考えられたことだったように思える。現実感が伴わない。言葉を失う。悪い夢であってほしい。

3月11日に起こった東日本大震災は被災地の方々の暮らしを根こそぎ奪ってしまった。日を追ってより詳細に被災地の状況が報道されるが、その被害の甚大さは多くの人たちには想像できないものである。家が1軒壊れたことだけでなく、ほとんどの人たちにとって一生涯で体験することはない。街全体の建物が倒壊し瓦礫の山になっている写真を見て、実感を持てる人などいない。建物跡の前にたたずみ涙する人を見て、その人の悲しみを通じてその人とともに悲しみを感じるのだと思う。私は被災

地の状況をテレビ、新聞、インターネット等で知るたびに、めそめそと涙を流しくよくよとした気持ちで何もできない自分を悔やんでいる。

被災の直後から被災地の方々が自ら話し合い、自宅にある食料を持ち寄り皆で炊き出しを始めている。地域の主婦の方々が協力して多くのおにぎりをつくっている。避難所では高齢者や体調を崩した方々に暖かい場所を譲り合っている。もちろん活力のある若者は運搬や建物の改修などの力仕事に率先して取り組んでいる。被災地の方々はこれまで体験したことのない悲しみや厳しさを感じているもの、めそめそしくよくよするばかりでなく、自分たちでできることを協力し合って動き出している。今回の大震災で力づけられたのはどれだろうか。実は力づけられたのは被災していない人たちなのである。家族や知人を失う、家や財産を失う、そうした過酷な状況のもとでも秩序を乱すことなく礼節を重んじて振る舞う被災地の

方々を見て、日本人としての誇りを取り戻し、ないがしろにしかけていた「おもいやり」と「おかげさま」の心の大切さを思い返すことができた。

被災地の方々のがんばりを見て、多くの人たちは『もうそんなにがんばらなくてもいい。いろいろな人たちにもっと甘えてほしい。』という気持ちになっている。被災地の方々にわれわれは力づけられたのである。これからは、被災地の人たちをしっかりと力づけることに努めよう。



進む道が変わる — 互助と共助 —

大震災の日、東京も交通網が麻痺し、都心に勤務する人たちは会社等で一晚を明かすか、歩いて帰宅することとなった。歩道いっぱいに人たちが歩いている。整然と歩いている。同じ方向の人とはおしゃべりをしながら歩いている。騒ぎ出す人はいない。誰一人として、治安に不安を持っている人はいなかった。

競争社会、格差社会など、生活や人生に勝ち負けをつける時代が続いている。競争は活力を生み、進歩、発展につながる。経済成長期の勝敗はその成長度合いに差が生じるが、敗者も少しは成長を享受することができた。企業社会中心の発展ではあったが、地域社会にも一定の分配があった。しかし経済が停滞し続け、少子高齢化など社会自体が縮小の方向のなかでは、負けは直接的に衰退につながり、切り捨てとなる。安泰と思われた企業や組織もあつげなく崩壊し、負け組となる。新社会人となれず、競争にすら加われない若者も増えてきている。

を感じているのではないかと思う。自助、互助、共助、公助という言葉がある。自助とは自らの力で問題を解決すること。互助とはお互いの関係性がはつきりしている間柄、つまり家族、知人や地域の人たちが協力し合って問題を解決すること。共助とは地域や市民レベルで協力し合い問題を解決すること。公助とは、国や自治体などの公的機関により問題解決されることである。企業やNPOなどが行う社会貢献は共助として捉えることができる。

これまでの日本は自助と公助で問題解決を図ろうとしてきた。財政課題が高まったことから国は自助の必要性を唱え、人々は家計の厳しさから公助により多くの内容を求めている。しかし、大震災で人々は自分自身が一人でできること、国に頼れることの適性と限界を知ることとなる。互助と共助の大切さを実感したのである。

互助や共助がなされるためには、自分以外の人たちと関係性を持たなければならぬ。関係性が

確かめられた日本
— 自信と期待 —

競争関係だけでは互助や共助はなされない。格差を生み、格差を広げると互助や共助の枠組みが崩れてしまう。経済成長期の競争ルートを経済停滞期にも適用しようとしてギクシャクし、人々の暮らしも生き方も物理的に向上したものの「豊かさ」を実感できない。本当の豊かさとは何か。そのためどの方向に進めばよいか。これまでは異なる道を歩み始めることとなる。

本が歴史や文化のなかで培ってきたものは決して間違つてなかった。世界各国の賞賛により確かめられた日本のあり方をこれからの復旧、復興の基軸に置き、世界の人々から理想モデルとして捉えられるような社会を作り上げる。

被災地の方々から力づけられたわれわれは、東北を、東日本を、日本全体を真に暮らしやすい社会となるよう努める役割を与えられたのである。自信を持ち、期待に応えよう。



宮古市HPに掲載された桜開花を知らせる写真